

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

No. 7

平成26年1月7日

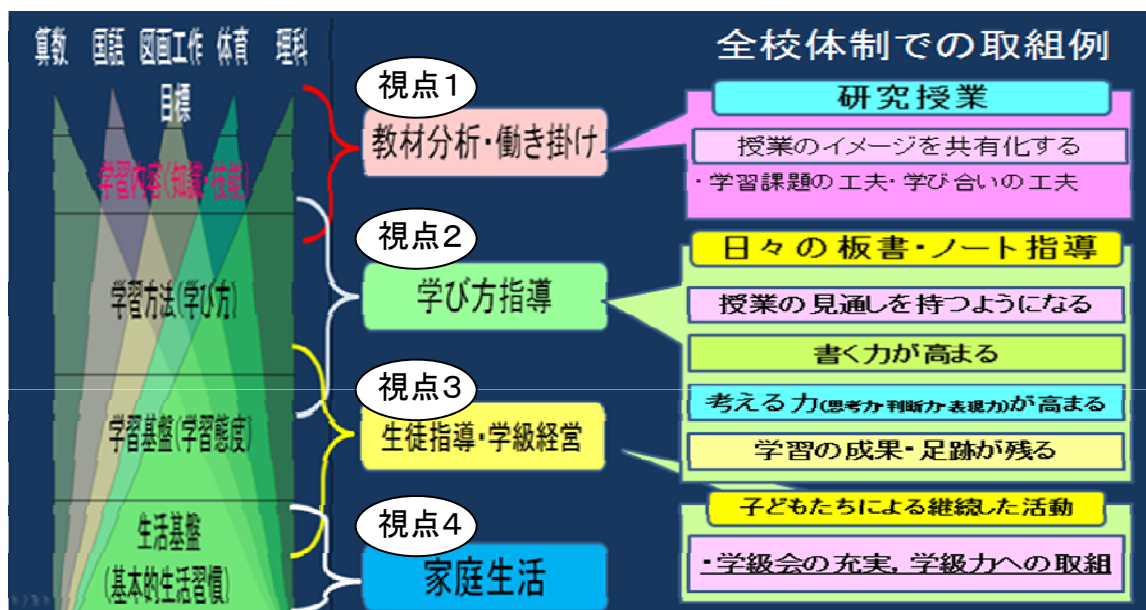
編集・発行

新潟市教育委員会

学校支援課 広報担当

日々の授業改善に向けた子どもの力を高める視点

本年度は、計画訪問や校長対象の授業マネジメント研修の機会等を通じて、各校の授業改善の取組について研修体制とのかかわりのなかで検討や協議を進めてきました。各校で進めている熱心な様々な取組から、日々の授業改善に向けた子どもの力を高める視点を4点に整理し記しました。



視点1については、どの学校も積極的に研究授業の機会を設け、各教科等の授業改善が進められています。

視点2の学び方指導については、「学習課題」と「まとめ」を明確にした板書やそれらをきちんとノートに書かせる指導などにより、学び方の基本的な事柄を教科等の枠を越えて身に付けさせようと全校体制で取り組む学校が増えています。このような学校では、例えば「学習課題」や「まとめ」を板書するとき〇〇色で四角囲みをする、板書を写真に撮って月に一度紹介し合う日を設けるなど、全員で共通に取り組む事項を決めるとともに、「やり切るシステム」を作って進めています。継続的に取り組んできている学校の子どもたちには、学習課題を意識した主体的な学びの姿を見ることができます。

視点3については、各学年、学級の実態に合わせて、一人一人を大切に・生かす授業作りや支持的な風土、集団づくりに向け、学級会などでの取組が進められています。

視点4については、一人一人の子どもの実態や事情に配慮した家庭と連携した取組、指導や支援がどの学校においても進められています。

どの視点からの取組も大事ですが、核となる取組を決め、「やり切るシステム」をつくり、子どもの変容をみんなで確認し合いながら、次の取組に進むようにすることが重要です。

裏面へ…

視点2 「学び方指導」に基づく取組

学習課題とゴールイメージを意識してねらいを明確にした授業改善の取組 (東曾野木小学校)

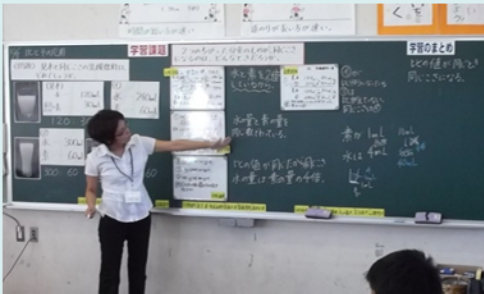
東曾野木小学校では、平成24年度から、かかわり合っ考えを深める子を目指しています。

今年度は、学習課題とゴールイメージを意識して本時のねらいを明確にした授業づくりに取り組み、「追究する学習課題が分かる板書」と「思考の過程が分かるノート」の記録の蓄積とその検証を通して、全校一丸となった授業改善に努めています。

具体的には、本時の学習を経て考えを深めた児童のゴールイメージをもつために、授業の終末に、児童がどのような発言をし、ノートにどのような記述をしたら考えを深めたことになるのかを児童の言葉で明らかにしています。また、ゴールイメージが具現されるためには、どのような学習課題を追究すればよいかを考えて設定しています。さらに、その学習課題の追究のために、児童一人一人の言語活動を伴うかかわり合いをどのように組織すればよいかを考えることで、本時のねらいを明確にした授業を行っています。

日々の授業記録の蓄積としては、全学級担任が学習課題とまとめを位置付けた板書や、ノート記録のファイルを、週1回のペースで作成しています。また、月1回実施される学年部研修会では、蓄積された板書やノート記録のファイルの分析を核とする研修を実施しています。

さらに、年度当初に作成した「授業改善計画シート」を基に、1人年2回以上の授業研究と「授業評価カード」に基づく授業分析を夏季休業中と年度末に行い、成果と課題を明らかにして、授業改善を進めています。



「UDL」や「少人数による学び合い学習」を取り入れた授業改善の取組 (新津第二中学校)

新津第二中学校では、平成22年度から24年度まで文部科学省より特別支援教育にかかわる研究開発学校の指定を受け、研究に取り組んできました。特別な支援が必要な生徒はもとより、全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりを目指し、ユニバーサルデザインラーニング(UDL)を取り入れた指導に着眼して授業改善を行っています。

特に、平成23年度からは、「学習課題」、「活動」、「振り返り」のプレートを全校で用意し板書に活用することで、生徒は本時で解決を図る課題をはっきりと意識したり、見通しをもって学習したり、分かったことを共通理解したりしています。

全ての教科で、毎時間、3つのプレートを使って授業を行うことで、生徒は課題解決の流れを自然に受け止め、落ち着いて学習を進めています。

また、小集団による学び合い学習も取り入れることで、生徒は協同的に課題解決に取り組むとともに、よい人間関係を形成しています。

学校全体で、「UDL」や「小集団による学び合い」による学び方指導を行うことで、生徒は主体的、協同的に学んでいます。



次号では、視点3 (生徒指導・学級経営) に基づく取組を紹介します。